

# 推古朝都市計画の復元的研究

酒 井 龍 一

## はじめに

本稿では、推古朝（592～628年）の首都（飛鳥）・副都（斑鳩）・連結道路（筋違道）の復元素案（付図）を提示し、発掘による検証に備える。

推古朝は推古・厩戸・馬子の三頭体制。同計画も共同による。基本単位は高麗300尺（約105.9m）。非条坊制の方格用地設定。両都の基本Y軸は西偏約20度。X軸は直交。連結道路（一部屈折）は17～18度。首都+副都+連結道路は三位一体。軍事的整備が目的である。

## 飛 鳥

主用地は、A（推古：豊浦宮→豊浦寺=尼寺）・B（僧寺=小墾田寺）・C（推古：小墾田宮）・D（既存する南北軸の飛鳥寺を取り込む）・E（新宮殿用）・F（馬子：嶋宮）・G（僧寺=川原寺）・H（尼寺=橘寺）・他。東西3000×南北6600尺の縦型プラン。中軸に仮称「飛鳥縦大路」。雷丘にバイパスを掘り割る。

推古朝都市計画の枠組は、後日の「倭京・倭都（南北軸）」（『日本書紀』）の原型。推古に続く舒明の岡本宮は、用地Eに西偏約20度で建設（630年）される

## 斑 鳩

主用地は、A（斑鳩宮=厩戸）・B（斑鳩寺）・C（中宮=菟道貝館）・D（岡本宮=刀自古）・E（膳宅）・F（鮑波葦垣宮=菩岐々美）・G（膳本宅）・他。東西6200×南北4500尺+横大路道幅分の横型プラン。西区は王域、東区は諸妃域。西区南側に所領域（田畑等約50町）。枠組中軸に仮称「斑鳩横大路」。同大路は『日本霊異記』（下巻第十六縁）の「聖徳王の宮の前の路」に該当。東方延長線で、「北の横大路」と連結する

後日、用地Cに中宮寺（尼寺）、Dに法起寺（尼寺）、Eに法輪寺（尼寺）、Fに鮑波宮（奈良時代）が、それぞれ方位を変え建設される。

## 連結道路

飛鳥と斑鳩を連結する最短道路（筋違道・太子道）。道幅20m強。豊浦寺西側－大和川南岸まで直線。大和川北岸－安堵小学校前で屈折－高安に至る。高安以北は、河川が集中し幹線道路建設は困難。飛鳥枠組の北西端と斑鳩枠組の南東端で連結。両者とも、道路との連結は鍵の手（L字形）となる。

## 河港と迎賓館

幹線道路と大和川の交点に、「河港」・「渡し」・「迎賓館」（「阿斗河辺館」【日本書紀】）を設定する。

## おわりに

以上、「付図」にて「推古朝都市計画」の復元素案を示し、今後の発掘に備えた。

【付記1】斑鳩に関する私案は、2006年「聖徳太子の都市計画」『文化財学報第23・24集』・2008年「聖徳太子の都市計画」案の課題」【同 第26集】奈良大学文化財学科、2008年「斑鳩歩けオロジー」『王権と武器と信仰』菅谷文則編 同成社、飛鳥に関する私案は、2008年「蘇我馬子の都市計画」『文化財学報 第26集』奈良大学文化財学科を参照されたし。

【付記2】飛鳥宮第I期（最下層：西偏20度）は、「推古朝都市計画」の枠組を踏襲したとの認識から、それを舒明の飛鳥岡本宮と推測する。奈良県立橿原考古学研究所2008年『飛鳥京Ⅲ』参照。

【付記3】付図のベースマップとして、奈良県立橿原考古学研究所編1981年「大和国条里復元図」を利用させていただいた。